指導案　アイディアを評価してみよう

■基礎データ

|  |  |
| --- | --- |
| 大目標 | ＊＊＊PART2　発散技法を学ぶ＊＊＊ |
| ステップ・タイトル | ステップ6 >>> アイディアを評価してみよう（第6回） |
| ねらい（学習目標） | ①尺度とは何かを知る②評価尺度法の方法を知る③複数の尺度でアイディアを評価することのおもしろさと難しさを知る |
| 使用する技術 | 評価尺度法 |
| 受講者に与えるテーマ（例） | 「魅力的な学内広報誌」「自分の住んでいるまちに欲しいショッピングモール」「学生向けのちょっと豪華なパッケージツアー」 |
| 進行 | ①導入・グループ分け・説明→②グループワーク→③個人ワーク→④グループワーク→④全体発表（各班2分・全体で20分程度）→⑤まとめ |
| グループ内の役割分担 | トランプが「1」の人を全体発表の発表者（プレゼンター）として指名する |
| 用意する物品 | キッチンタイマー（全体時間管理）、A4コピー用紙（各人2枚：自己紹介用、グループワーク時のメモ用）、ワークシート（評価尺度法）（A3に拡大コピーして使用すると使いやすい）（人数分）、水性ペン（黒・人数分（各人の筆記用具でもよい））、トランプ（グループ分けに必要な場合） |
| 備考1 | 「発散技法」を中心に学習したい場合には、テーマを変えながらSTEP04～STEP06で取り上げた発散技法などをくり返し実施してもよい |

■学習の流れ

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 構成 | 学習活動の内容 | 指導上の留意点 |
| 1. 導入（12分） | ⑴導入（12分） | それでは、みなさん、挨拶しましょう。おはようございます／こんにちは。※受講者にも発声させる |
| 前回のふりかえり（実施した場合） | 前々回から発散技法という「アイディアを出す方法」を学んでいます。前回は、「チェックリスト法」について、ワークシートをもとにグループワークをしました。今日の技法は少し複雑です。自分たちでアイディアをもとに提案するのですが、同時に、それらの提案を評価するための評価軸も作りながら、自分たちの提案自体を評価していくことに挑戦してもらいます。 |
| グループ分け | それではグループ分けをしましょう。グループに分かれる時には、荷物を持って移動してください。※グループの分け方は「STEP01 学習の流れ ①導入 グループ分け」参照 |
| アイスブレイク | グループに分かれましたか。まずはアイスブレイクをしましょう。A4の紙を使って自己紹介をしてください。各班、A4の紙と黒の細い水性ペンを人数分持っていってください。※ A4の紙を使った自己紹介は「STEP01 学習の流れ ④展開3」参照※アイスブレイクの説明が必要な場合は「STEP01 学習の流れ ⑤まとめ」参照（10分程度のアイスブレイク後）おつかれさまでした。まだ終わっていないグループも、時間の関係でとりあえず終了してください。みなさん拍手をお願いします。 |
| 2. 展開1（6分） | ⑵評価尺度法について説明する（6分） | 今日は発散技法という「アイディアを出す技法」の中でも「評価尺度法」という技法によるグループワークに挑戦していきたいと思います。 |
| 評価尺度法とは | 評価尺度法は、評定尺度法とも呼ばれています。出されたアイディアや提案を、複数の視点から検討して優劣をつける方法です。具体的には数項目の評価尺度（評定尺度ともいう）を決めて、各アイディアや提案をその評価尺度によって点数化していきます。一般的には合計点が一番良いアイディアや提案を最も優れているものとして採用するやり方です。 |
| 尺度とは | ここで尺度とは何かについて説明しましょう。尺度とは、心理学などで使われている言葉です。心理学では、人の心の状態や行動などを測定してデータにすることがよくあります。測定をする時は、ある「物差し」（評価項目）で測定しながら数値を割り当てる方法を使います。この時の「物差し」（評価項目）を尺度といいます。 |
| 評価尺度法の方法 | 具体的なやり方を説明します。今日のワークシートを見てください。（1）まずは①です。最初に、テーマを評価するための尺度の案を出して、適切だと思われる評価尺度を選びます。今回は10個の尺度を選びます。（2）次に10個の尺度を評価する目盛りを設定します。今回は「そう思う」から「そう思わない」までの5段階で評価します。（3）そして②で出されたアイディアや提案について、③の評価尺度で評価します。各評価尺度について最も当てはまるものに印をつけます。（4）そして点数を集計して最も優れているアイディアを採用します。※ 10 個の尺度が難しそうな場合には、8 個の尺度版を使う |
| 3. 展開2（9分） | ⑶評価尺度法（9分）ワークシートの説明 | 「評価尺度法」で、アイディアを出す練習をしましょう。ワークシートに班と名前を書いてください。今日のテーマは「魅力的な学内広報誌」です。みなさんで魅力的な学内広報誌とは何かを話し合って、最後に各班2分で発表をしてください。ただし今回は、班の中でまず提案を3つ作ってもらいます。そしてそれを自分たちが作った評価尺度によって評価して、最も点数の良かった提案をベースに、最終的な提案にしてもらいます。魅力的な学内広報誌とはどういったものなのか、それを評価するための尺度を考えるところから始まります。※テーマは何でもよいが、製品・企画開発などで活用される手法のため、家電、文房具などの製品や、イベントなどのサービス関連のものがよい※各班の発表時間は、状況に応じて変える。今回は、各班3分×6 班＋バッファ（調整できる予備の時間）2分の、全体で20分を想定 |
| グループワークの説明①テーマを評価するための尺度を考えよう（グループワーク） | ワークシートには、①から④まで番号がついています。この順番でグループワークを進めていきます。まずは①です。ここはグループワークです。最初に、テーマである「魅力的な学内広報誌」を評価するための尺度を例にならって出してください。１人数個ずつ出して、合計で10 個以上になるようにしてください。そこからみなさんで話し合って、10個になるまで絞ってください。10 個まで絞れたら、ワークシートの③の尺度１から尺度10 までの四角の中に選んだ尺度を書いてください。尺度を書く順番は関係ありません。※ここまで時間を区切ってやってみてから次の②に進んでもよい。時間はおおよそ10 分を想定する※今回のテーマに合ういくつかの尺度を例示してもよい |
| ②テーマについて3つの提案を出してみよう（個人ワーク） | ここまでが尺度を作る下準備です。ここから「魅力的な学内広報誌」のアイディアを出します。まずは個人ワークです。ワークシート②の番号の下の四角「個人作業（ここだけ）（1～2提案）」に5分くらいで自分なりの魅力的な学内広報誌の提案をしてもらいます。イメージトレーニングですので、相談をしないでください。 |
| ②テーマについて3つの提案を出してみよう（グループワーク） | 班の中で個人ワークがだいたい終わったら、次はグループワークです。班の中で、それぞれ考えた提案を発表します。発表した内容は、ワークシート②の「グループ作業」の四角の中に書いていきます。そして全員が発表をしたら、グループで話し合って、提案Aから提案Cまでの3つの提案を作ります。複数の人の提案を合わせたものでもかまわないので、必ず3つの提案を出してください。それぞれの提案を「提案A」から「提案C」までの四角の中に書いてください。※ここまで時間を区切ってやってみてから次の③に進んでもよい。時間はおおよそ15 分を想定する |
| ③ 10個の尺度で評価しよう（グループワーク） | さあいよいよ評価です。「提案Ａ（○）」「提案Ｂ（△）」「提案Ｃ（◇）」のそれぞれの提案を10個の評価尺度で評価してみましょう。今回はグループで話し合いながら評価します。ワークシート③の例にならって、それぞれの尺度の右側にある目盛りに、それぞれの提案の評価を○△◇で印をつけます。メンバーによって意見が違うかもしれませんが、今回は話し合いながら評価を決めてください。すべての評価が終わったら各提案の合計点を出してください。「そう思う」が1、「そう思わない」が5としているので、一番点数の小さな提案が最も評価の高い提案として採用されます。※ここまで時間を区切ってやってみてから次の④に進んでもよい。時間はおおよそ10 分を想定する |
| ④評価をもとに比較検討しながら最終的な提案を考えよう（グループワーク） | 最後の④は完成アイディアです。ここもグループワークです。テーマ「魅力的な学内広報誌」について、先ほどの評価で最も評価が高かった提案をベースにしながら、完成アイディアである「魅力的な学内広報誌」の提案を作ってください。他の提案や新しく出てきたようなアイディアと融合させてもかまいません。④のタイトルは最後に考えましょう。具体的な広報誌名を作ってもおもしろいと思います。※ここまで時間を区切ってやってみてから発表に進んでもよい。時間はおおよそ10 分を想定する |
| 発表 | 最後は発表です。発表時間は〇時〇分から各班〇分で発表してください。発表は、プレゼンター役の人が発表してください。各班のトランプの1の人がプレゼンターです。よろしくお願いします。発表は③④を中心に発表してください。①②についてはいくつかのアイディアを紹介するようにして時間内に収めてください。※発表は、残り時間や班の数によって変えてよいが、１分（④中心）もしくは2分程度とした方がよい※余裕があれば質疑応答の時間を入れる |
| 4. 展開3（40分） | ⑷グループワーク（40 分）はじめの合図グループワーク開始 | よろしいでしょうか。わからないところがあったら、私が各班をまわりますので、その時に聞いてください。それでは始めてください。※キッチンタイマーなどで時間を計る（終了時に音が出るものなどがよい）※基本的には40分程度を作業時間とする。時間管理は講師側が全体ファシリテーターとして行う。「発表開始まで30分前」、「15分前」、「10分前」、「5分前」など全体に周知する |
| 5. 展開4（20分） | ⑸全体発表（20分） | おつかれさまでした、みなさん拍手をお願いします。それでは発表に移ります。1班のプレゼンターから順番に発表してもらいます。今日の発表は前には出ず、プレゼンターはその場に立ってみなさんの方を向いて発表してください。キッチンタイマーを2分間にセットしていますので、プレゼンターはスタートボタンを押して発表を始めてください。※前に出て発表をさせてもよい。その場合にはプレゼンターだけではなく、班のメンバー全員を前に出して「班としての発表」を演出する方がよい※グループワーク中に、各班をまわってプレゼンターにトランプを引かせ発表順を決めてもよいまずは１班のプレゼンターさん、よろしくお願いします。 |
| 発表終了 | ありがとうございました。みなさん拍手をお願いします。次は2 班のプレゼンターさん、よろしくお願いします。※最後のプレゼンターまで発表する※時間に余裕があれば質疑応答を行ってもよい |
| 6.まとめ（3分） | ⑹まとめ（3分） | これで全部の班の発表が終わりました。みなさん、もう一度拍手をお願いします。（拍手）ありがとうございました。 |
| ふりかえり | 今日はアイディアを生み出す発散技法の１つである「評価尺度法」を学びました。※数人から感想を尋ねてもよいややこしかったかもしれませんが、みなさんの意見を反映しながら、客観的に評価できたかと思います。何かを評価する時には「好き／嫌い」という主観的な感情論ではなく、多くの人が理解できる客観的な尺度で評価をすることも必要です。今日はこれでおしまいにしたいと思います。おつかれさまでした。 |

■評価ポイント

1．尺度とは何かを知る

2．評価尺度法の方法を知る

3．複数の尺度でアイディアを評価することのおもしろさと難しさを知る

■特記事項

・STEP04 の指導案中に挙げた参考資料をもとに、別の発散技法を実施してもよい

複製・加工等ご自由にどうぞ